

まずはウォーミングアップ！

みんな笑顔で楽しく体操！

「健やか生活応援講座」を開催しました。

令和元年11月10日（日）、「筋力アップにトライ一体を動かしてみようー」をテーマに、「健やか生活応援講座」を開催し、28名の参加がありました。

今回は「ロコモティブシンドローム」をはじめとした、筋肉や骨を動かす仕組み（運動器）の衰えとその対策について、四国学院大学社会学部教授の片山昭彦さんと香川県健康福祉部健康福祉総務課の増田主任からお話していただきました。

まず、増田主任からは「香川県の平均寿命と健康寿命」に関する講義があり、健康寿命が男女とも全国平均を上回っている現状が報告されました。

次に片山先生から「ロコモティブシンドローム」が進行すると要介護や寝たきりの状態になるリスクが高くなるといわれており、それを防ぐためには若い頃から適度な運動や活動で筋肉や骨に適度な刺激を与え、適切な栄養を摂ることが大切だということを学びました。

最後に日常生活の中でも手軽に取り組める筋力アップのための運動を教えていただき、参加者みんなで楽しく体を動かしました。

「大人の図書館探検ツアー」・「おやこde図書館探検」を 開催しました！

令和元年10月27日（日）に「大人の図書館探検ツアー」、11月3日（日・祝）に「おやこde図書館探検」を開催しました。

大人の図書館探検では、普段見ることのできない書庫の見学を行いました。参加者の皆様は、職員の説明に熱心に聞き入り、興味深い様子で貴重な資料を手にとってご覧になっていました。

おやこde図書館探検では、書庫見学と児童資料コーナーでのカウンター体験を行いました。書庫では、ハンドル式移動書架を動かしたり、家族で協力して本探しをしたりしました。カウンターでは、子どもたちに本の貸出手続きを体験していただきました。

参加者のみなさんからは、「古い資料があって感動した」「ただ見るだけでなく、実際に触れてみたり本を探したり、カウンター業務ができて良い経験となった」などの感想をいただきました。

大人の図書館探検ツアー



おやこde図書館探検

レファレンス日誌から 第6回

～「綾上劇場はどこに？」の巻～



思い出に残っている映画館「綾上劇場」のあった場所と廃業時期を知りたいとのお問い合わせがありました。

香川の映画史についての定番資料である『思い出の香川映画史』に、「映画館数県内最大時（昭和37年）における一覧表」が掲載されています。そこには123館中の1館として「綾上劇場」が記載されていました。さらに詳しい情報をとページを繰りましたが、場所や営業期間に繋がる記述はありませんでした。

次に、映画館名の「綾上」は地名だと考え、綾上町役場が、昭和53年と平成17年に発行した『綾上町誌』を見ましたが、どちらにも「綾上劇場」に触れていません。

そこで、電話番号を職業名やサービス名から探す職業別電話番号簿を調査することにしました。当時の四国電気通信局が発行した『香川県職業別電話番号簿』で、当館所蔵で一番古い昭和42年の電話番号簿の職業欄「映画・演劇・興行」に、「綾上劇場」は2桁の電話番号とともに「綾上町山田下」との所在地が記されていました。昭和43年、昭和44年と調べていき、昭和45年分には掲載がなくなっていたので、この頃廃業したのではないかと推察されます。

『思い出の香川映画史』の「あとがきにかえて」には、テレビの普及に伴い県下の映画館数の減少が進んだとあります。県内それぞれの町にあり、娯楽の担い手であった映画館の盛衰を実感させるレファレンスでした。

〈参考資料〉

『思い出の香川映画史』 香川県興行環境衛生同業組合／刊 1992年（7782 K1）

『香川県職業別電話番号簿』 四国電気通信局／刊 1967年（K6968 K1 3-42）

この本オススメです！

～ 2020年の本～

2020年がやってきました。1月には、阪神・淡路大震災から25年の節目を迎え、7月から9月にかけては、56年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。

そんな2020年に興味や関心をひきそうなことに関する本を3冊ご紹介します。

1冊目は、阪神・淡路大震災の経験をもとに生まれた防災マニュアル本、2冊目は1964年の東京オリンピックの本、3冊目は生誕100年を迎える石垣りんの詩集です。



『地震イツモノート』

地震イツモプロジェクト／編，寄藤文平／絵，渥美公秀／監修
(ポプラ社) 2010.12 (請求記号：36931/J6/2)

地震が起きる可能性は、「モシモ」ではなく「イツモ」。阪神・淡路大震災の被災者の声をもとに、防災を私たちの生活の一部と考え、いつでもできる備え方と心構えをまとめた本です。

災害が少ないと言われる香川県ですが、南海トラフ地震が30年以内にかかる可能性は70～80%、最大クラスの地震の場合、県内の死者6200人と想定されています。イツモ備えて、地震の時にも落ち着いて行動したいですね。



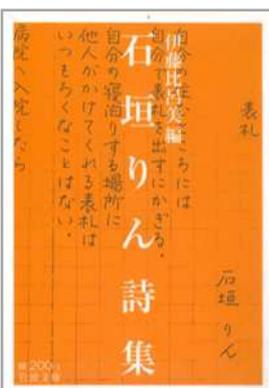
『1964年の東京オリンピック』

石井正己／編 (河出書房新社) 2014.1 (請求記号：7806/I7)

1964年の東京五輪の際、当時の文壇をリードした作家たちが次々と筆をふるった様子は「筆のオリンピック」と言われたそうです。

本書では、その中から作家の個性あふれる文章を厳選し、収録しています。巻頭を飾るのは、三島由紀夫の「東洋と西洋を結ぶ火」。今年の開会式もこのように晴れやかであれば、と願わずにはられません。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、どのような名文が生まれるのか、楽しみにする本です。

『石垣りん詩集』 石垣りん／〔著〕，伊藤比呂美／編
(岩波書店) 2015.11 (請求記号：I9115/I6)

戦後の詩壇を代表する詩人、石垣りん。「挨拶」や「シジミ」など、彼女の詩を学校で習ったという方も多いのではないのでしょうか。

石垣りんは、大正9(1920)年、東京生まれ。14歳で高等小学校を卒業後、銀行に就職し、家族の生活を支えながら詩作を続けました。

本書では、未発表詩を含む全詩業から、120篇を精選して収録しています。社会や自らの生活を鋭い言葉で表現した石垣りんの詩は、お正月明けの気分を引き締めたい方に、オススメです。

●令和元年九月、大平文庫目録を発行しました●

このたび、「大平文庫目録」を発行しました。この目録には、当館が平成28年2月に開設した「大平文庫」の蔵書 約8,500冊の情報を収録しています。「大平文庫」には、公益財団法人大平正芳記念財団から寄贈された故大平正芳氏の蔵書をはじめ、著作や研究書、大平正芳記念賞受賞作などがあります。

故大平正芳氏（1910～80）は旧豊浜町出身で、ふるさとの子どもたちの成長を願って昭和40年10月に観音寺市にあった自らの事務所に「大平文庫」を開設し、数千冊の図書を地元の人々の利用に供しました。この文庫は、氏の遺志を継いで設立された大平正芳記念財団に引き継がれ、さらに充実が図られた後、香川県立図書館にご寄贈いただきました。

読書家で文筆家としても知られた故大平正芳氏の蔵書等からなる「大平文庫」は、政治、経済の分野だけではなく、哲学、歴史、文学など幅広い分野にわたった貴重なコレクションとなっています。

この目録が、当館の「大平文庫」の利用の一助となり、多くの方々にご活用いただければと思います。

この目録は香川県内の公共図書館（中央館）等で閲覧できます。また、当館ホームページから、全文をご覧いただけます。

【大平文庫目録】

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/oh>



● 2階トイレがリニューアルしました！ ●

ご要望をいただいていたトイレの洋式便座への改修工事のうち、2階トイレの工事が終了しました。現在は、1階トイレの工事を行っておりますが、多目的トイレは工事中もご利用いただけます。

工事期間中は、ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19（香川インテリジェントパーク内）

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>